

シンシナティ小児病院での 研究留学生活

Cincinnati Children's Hospital Medical Center
The Heart Institute

本田 崇
(シンシナティ小児病院心臓研究所)

平成28年4月からシンシナティ小児病院の循環器部門に留学し、Dr. Redingtonの研究室で基礎研究に従事しています。シンシナティはアメリカ中部の主要都市の一つで、オハイオ川に面した風光明媚な場所です。シンシナティ小児病院はアメリカの小児病院ランキングで第3位に評価されており、世界中から患者さんが受診され最先端の診療が行われています。附属する研究所も非常に大きく、充実した設備のもとで多くの研究者が研究に従事しています。

私は「心筋虚血と炎症」をテーマにしたプロジェクトに携わっています。研究開始当初は何から手をつけてよいかと思案に暮れる苦しい時期もありましたが、Dr. Redingtonはいつも辛抱強く前向きにサポートしてくださり、留学後半に入りようやくアイデアも湧き、順調に研究が進むようになりました。留学以前は小児科医としての臨床の傍らで研究をしていましたので、本格的に基礎研究に従事するのは今回が初めてです。新しい科学的知見を見出すことがこれほどまでに困難なことであることを痛感したのと同時に、ものごとをより深く追究する経験は、今後の日本で携わる研究と臨床にも生かせるものと思っています。またDr. Redingtonは小児病院の臨床のDirectorでもあり、臨床カンファレンスやカテーテル室への出入りを許可していただいています。こちらでの医療は日本よりも一歩先を行くものであり、こうした臨床現場の見学も非常に貴重な経験となっています。

海外生活に関して、留学当初は文化の違いに戸惑うことが多く非常に苦労しましたが、1年くらいかけてようやく慣れました。この文化の違いに何とか順応できたことは、私の家族にとっても人生の大きな糧になると思います。また、多くの日本人研究者の仲間ができたことも留学して非常によかったと思うことの一つです。似た境遇の医師の方々や、薬学や生理学などの基礎研究者の方々と、励まし合いながらがんばっています。

こちらに留学して2年が経過し数ヶ月後の帰国予定日が決まった今となつては、海外での研究生生活は非常に充実したもので多くの良い思い出があります。しかしながら、研究がうまくいかなかったり、文化の違いに苦しんだり辛い時期もありました。上原記念生命科学財団からリサーチフェローシップを頂けたことは生活面で楽になっただけでなく、そういった苦しい時期に、「存分に研究に従事なさい」と自分自身を納得させられる、精神的な後押し

しになりました。

最後になりましたが、研究留学をこのようにサポートしてくださいました上原記念生命科学財団の関係者の皆様に、心よりお礼申し上げます。帰国するまでにこちらでの成果を形にしたいと思います。また帰国後もこちらでの経験生かして、日本での研究、臨床に貢献できるよう、精一杯努力いたします。

(30. 5. 1受領)